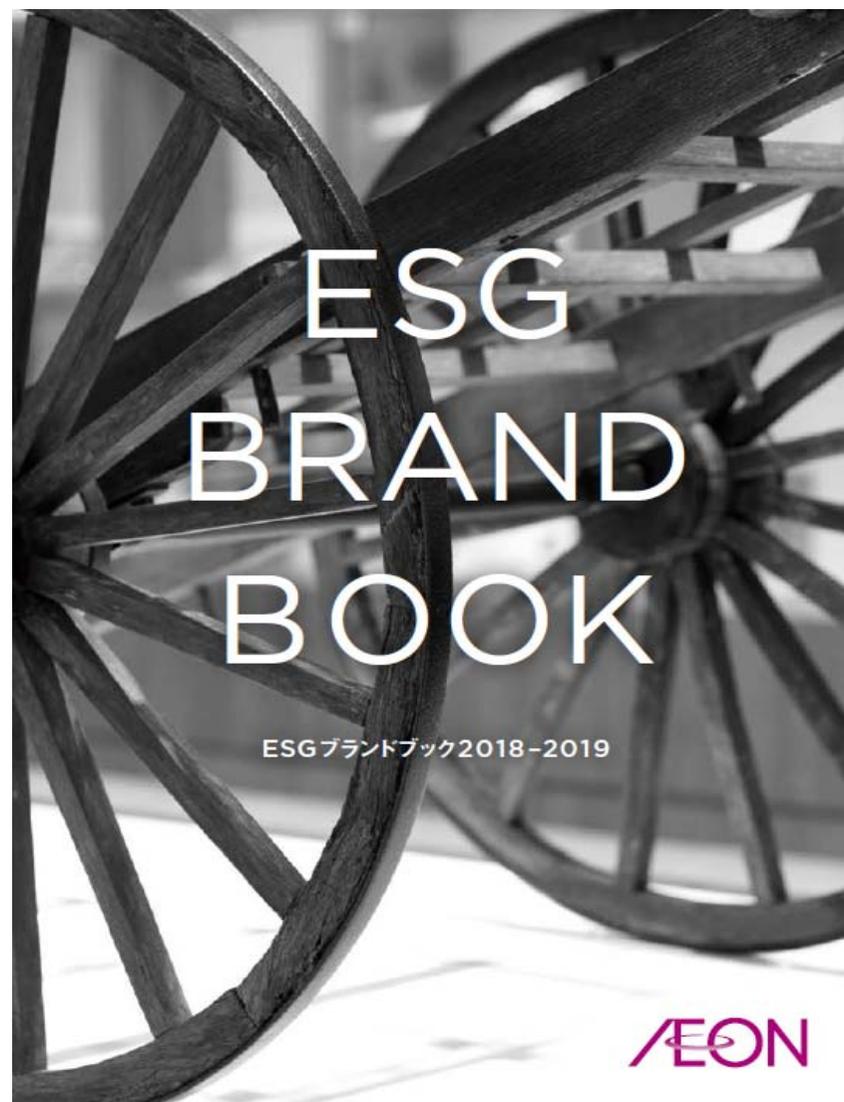


イオンのサステナブル経営説明会

2019年1月22日

イオン株式会社

イオン ESGブランドブック 本日発行



AEON Report 2018 (統合報告書)

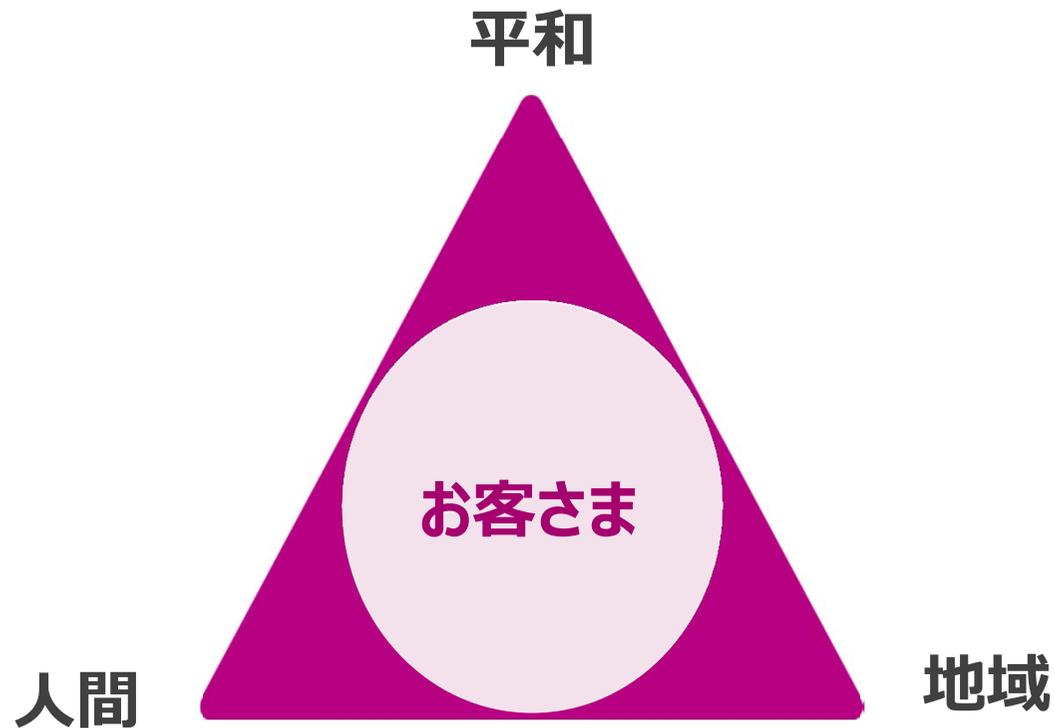


HPにて公開中

<https://www.aeon.info/ir/library/aeon-report/>

Copyright (C) 2019 AEON Co., Ltd. All Rights Reserved.

お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。



イオンは基本理念のもと、絶えず革新し続ける企業集団として、「お客さま第一」を実践してまいります。

【基本理念の具現化】イオンの植樹活動



「イオン ふるさとの森づくり」



(2018年3月25日 THE OUTLETS HIROSHIMA)

【基本理念の具現化】イオンの植樹活動



地域のお客さまと、地域の樹木を植える

【イオンの植樹活動の広がり】



【基本理念の具現化】イオンの植樹活動



イオンモール富士宮で観察された野鳥の記録数
隣接住宅街区間に対し、イオンモール区間 最大**7.5倍**



【基本理念の具現化】イオンの植樹活動



生きものの集う、地域の自然豊かな森を目指して

【15年程度経過したイオンふるさとの森は、鳥類の生息空間へ成長】



イオンモール秋田（25年経過）



イオンモール猪名川（19年経過）



隣接する住宅街



イオンモール富士宮（16年経過）



イオンモール南風原（13年経過）

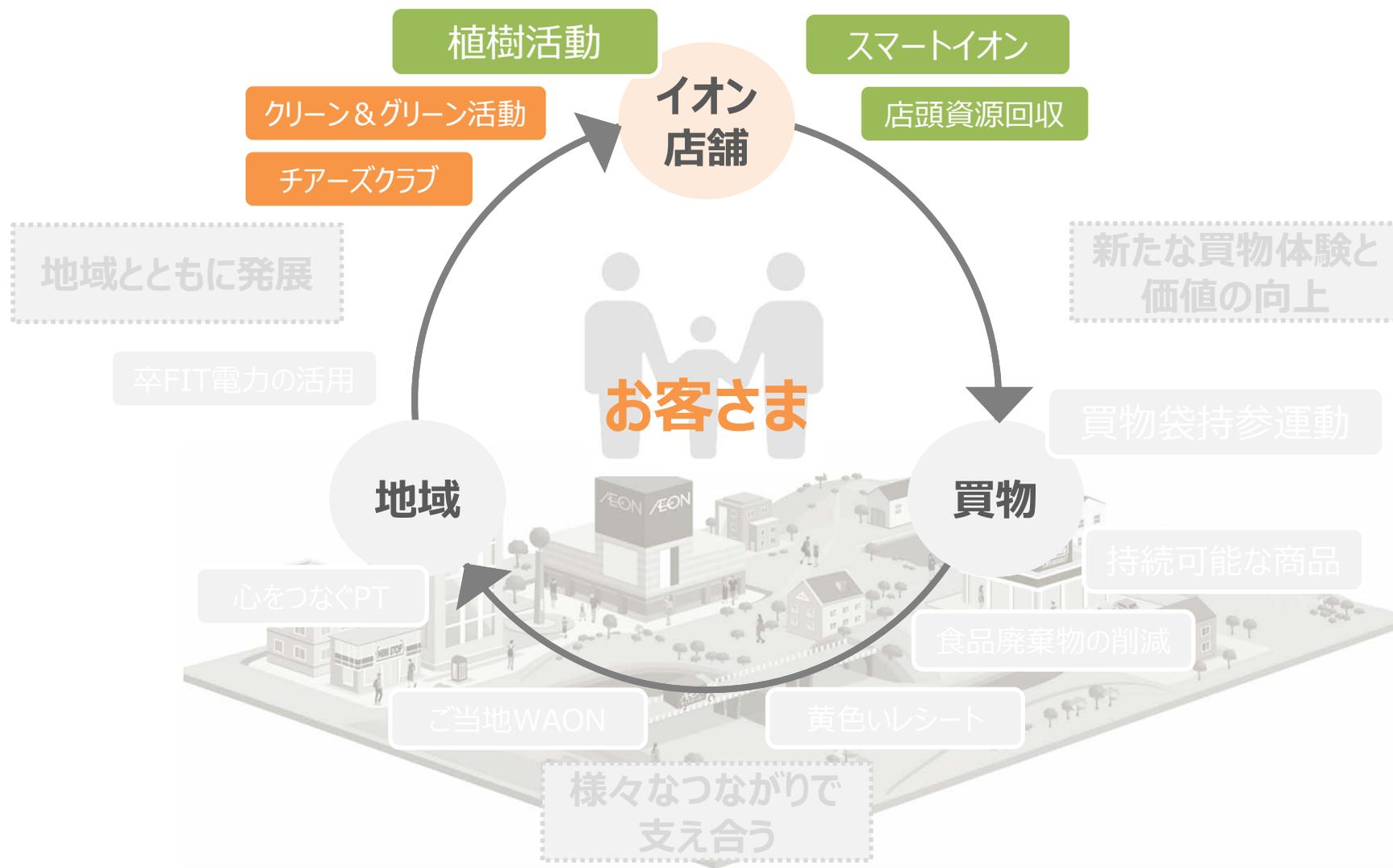
イオンのふるさとの森で
観察された野鳥の記録数
1.5~7.5倍

森林性の野鳥類



※2017年10月~12月 弊社委託先エスベックミック(株)による調査結果より

イオン店舗をプラットフォームに すべてのステークホルダーとともに



- 全国イオン店舗を拠点に、小中学生の子どもたちを対象に、「環境」に興味を持ち、集団行動を通じて社会的なルールを学ぶクラブを運営

地域の子どもたちの成長を育む「場」の提供

全国のイオン店舗を拠点に活動

※ グループ主要企業が税引前利益の1%相当額を公益財団法人イオンワンパーセントクラブに拠出
その拠出金の一部を利用して当活動を実施

- イオン店舗の従業員が、毎回の活動をコーディネート
- 年間活動テーマに沿って、1年を通して活動を実施

2017年度

全国 約460クラブ、約7,700人が参加

2005年～2017年度までの累計

全国 のべ約71,700人の小中学生が参加

年間活動テーマ	
2018	エネルギー
2019	太陽
2020	水
2021	植物
2022	動物
2023	ゴミ・リサイクル



【店舗を拠点に】イオン チアーズクラブ



- メンバーは1年間の活動成果を壁新聞にまとめ、壁新聞発表大会で優秀な発表を行った上位50クラブは、「チアーズクラブ全国大会」へ出場
- 海外では 中国 と マレーシア にて展開



壁新聞発表大会 (北海道)



海の生きもの観察 (沖縄大会)



尻別川でのラフティング体験 (北海道大会)



農場体験ツアー (中国)



オーガニック農園の見学ツアー (マレーシア)

中国
70クラブ 2,716名
2018年12月時点

マレーシア
34クラブ 2,476名
2018年3月時点

【店舗を拠点に】イオン チアーズクラブ



- 2018年度 年間活動テーマ「エネルギー」に関わる活動を全国で実施
- 地域の自治体等と連携して、農作物の苗植え、管理、収穫、販売まで体験できる「ファーマーズプログラム」も全国9ヶ所で実施（2018年度実績 のべ689名が参加）



店舗のエネルギー施設の見学
(イオン水戸内原店)



発電の仕組みについての講義
(イオンつがる柏店)



ペットボトルで風車作り、風力発電の仕組みについて
の講義 (イオンスタイル出雲)



サツマイモ苗の定植
(イオン大分臼杵農場)



田んぼでの稲刈り体験
(千葉県山武郡芝山町)



農作物（ロマネスコ）の店舗での販売体験
(イオンモール徳島)

【店舗を拠点に】店頭における資源回収

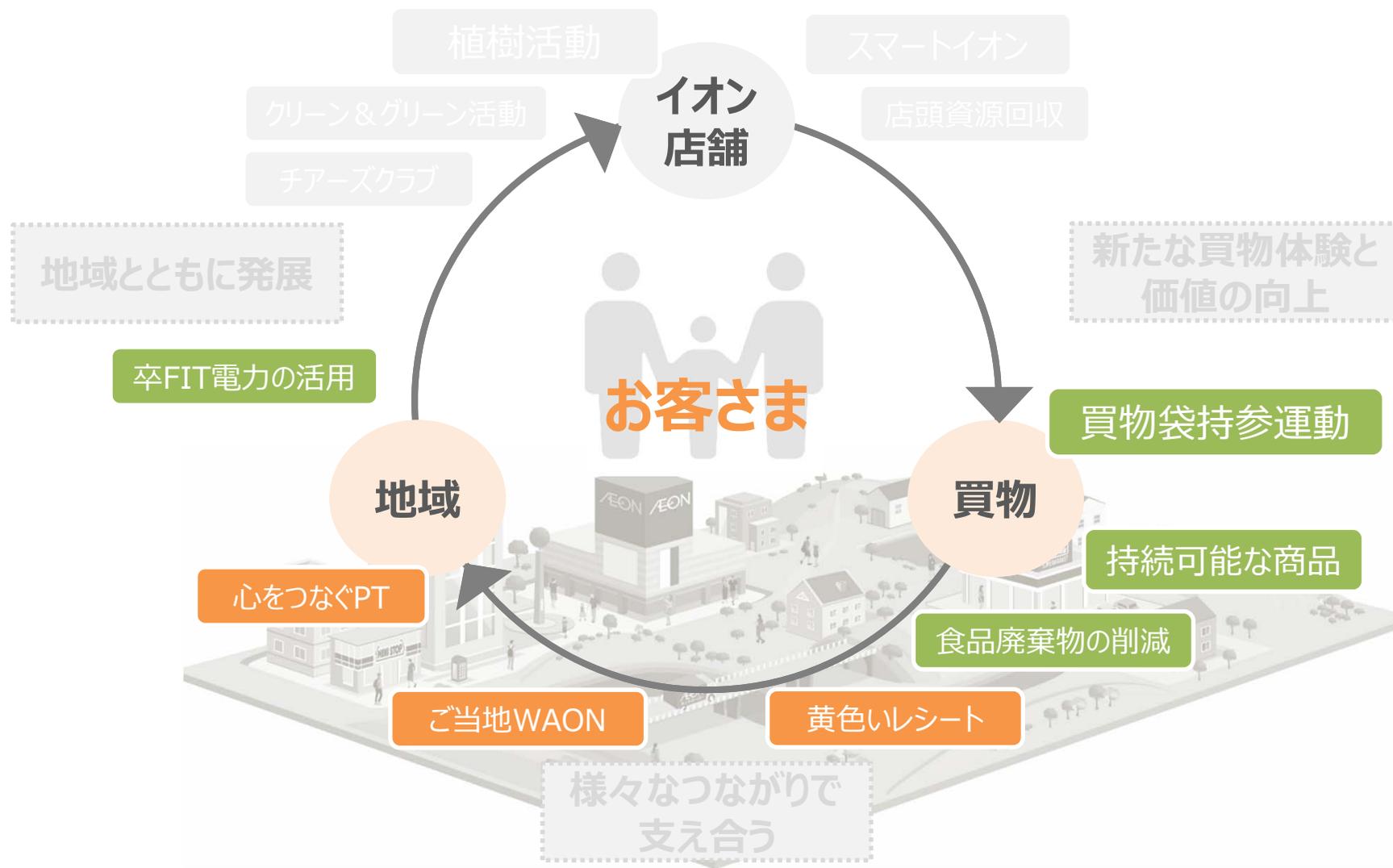


店舗を地域の資源循環の拠点に

【資源回収・循環フロー】



イオン店舗をプラットフォームに すべてのステークホルダーとともに



【お買物を通して】買物袋持参運動



地域のお客さま、自治体とともにレジ袋の削減

【イオン レジ袋削減の歩み】



【お買物を通して】持続可能な調達



未来の資源を守る“やさしいお買い物”を目指して

【MSC、ASC認証商品の積極的な販売】



トップバリュ グリーンアイナチュラル
asc認証 ノルウェー産アトラン
ティックサーモン



MSC-C-51735

トップバリュ グリーンアイナチュラル
MSC認証 ノルウェー産さば

第19回グリーン購入大賞 「大賞・農林水産大臣賞」受賞

主催： グリーン購入ネットワーク
後援： 環境省、経済産業省、農林水産省、日本経済団体連合会、
WWFジャパン、読売新聞社、毎日新聞社、日刊工業新聞社、
日経BP社、東洋経済新報社、株式会社共同通信社

※「グリーン購入大賞」
「持続可能な調達」を通じて、グリーン市場の拡大に貢献した取り組みや、SDGsの目標達成に資する取り組みを表彰

第19回 グリーン購入大賞
大賞・農林水産大臣賞受賞
グリーン購入に誇りを感じています

第1回エコプロアワード 「奨励賞」受賞

主催： 一般社団法人産業環境管理協会
後援： 財務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省

※「エコプロアワード」
すべてのエコプロアワード（環境負荷の低減に貢献した製造・サービス）を表彰する「エコプロ人賞」が本和より「エコプロアワード」としてリニューアルされ、
製品、サービス、技術、ソリューション、人物などが「環境への配慮」が投資として含まれる取り組みを表彰

EcoPro Awards

このたびの2つの賞の受賞は、2006年にMSC認証、2014年にASC認証を取得した水産物をアジアの小売業として初めて販売開始し、さらに店舗では、これらの国際認証商品の専用コーナー「Fish Baton(フィッシュバトン)」を設けて情報発信を行うなど、持続可能な水産物の認知度向上と、取り扱い拡大に向けた取り組みが評価されたものです。

「フィッシュバトン」 店舗

地域の資源を守る“やさしいお買い物”を目指して

【世界初となるウナギの漁業改善プロジェクトを本格始動（2018年6月公表）】

【イオン ウナギ取り扱い方針】

- 主に「ニホンウナギ」と「インドネシアウナギ」の2種を販売します。
- 2023年までに100%トレースできるウナギの販売を目指します。
- 「インドネシアウナギ」の持続可能性を担保するため「インドネシアウナギ保全プロジェクト」を推進します。
- ウナギ以外の原材料を使用した「蒲焼」の商品開発を進めます。



【お買物を通して】イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

- 毎月11日、応援したいボランティア団体等のボックスに黄色いレシートを投函すると、レシート合計金額の1%をイオンから各団体に寄付

自分が住む地域を応援

店舗近隣の団体の中から、お客さまが応援したい団体を選択



毎月11日のお買物で黄色いレシートをお渡し

応援したい地域の団体のBOXにレシートを投函

レシート合計金額の1%をイオンが拠出して団体に寄付



2017年

助成団体数 **のべ約2万5,700団体**

贈呈相当額 **約3億1,395万円**

2001年～2018年2月末までの累計

助成団体数 **のべ約29万3,600団体**

贈呈相当額 **約34億2,935万円**

地域のボランティア団体等の活動を応援

【取組事例：イオン船橋店の登録団体 NPO法人ちばMDエコネット】

当団体の活動内容：

福祉作業所として、障がいのある方に働く場を提供

障がいのある方とない方が一緒に働く**コミュニティカフェを運営**

※2012年開業、障がい者スタッフ10名、サポートボランティア20名で運営



黄色いレシートによる支援で
カフェで使用するさまざまな備品を寄贈
(食器、トースター、荷物カゴ、傘立てなど)



イオン船橋店の従業員、チアーズクラブ
の子どもたちが当施設を訪問・交流



イオンの店頭で団体の活動をPRする
場を提供 (イメージ)

【お買物を通して】イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

■ 中国、タイ、カンボジアのイオン店舗でもキャンペーンを展開



イオン中国（2012年～）



イオンタイランド（2015年～）



イオンカンボジア（2015年～）

（参考）2017年度 助成先団体の活動分野別割合

助成先団体の活動分野		2017年度 登録団体数の割合
①	福祉の増進	53%
②	環境保全・環境学習の推進	10%
③	街づくりの推進	5%
④	文化・芸術の振興	6%
⑤	子供の健康と安全の増進	26%

【お買物を通して】ご当地WAON



- 応援したい地域のご当地WAON(電子マネーWAONカード)を購入・お買物に利用すると、ご利用金額の一部をイオンから地域に寄付

離れた地域も応援

全国の都道府県の中から、お客さまが応援したい地域を選択



2017年度

約 2億8,833万円を寄付

2009年～2018年2月末までの累計

約12億7,247万円を寄付

【お買物を通して】ご当地WAON



● ご当地WAON(一例)

145種類を
発行

(2018年12月時点)



地域の宝物を次の世代へ

【取組事例：ほっかいどう遺産WAON】



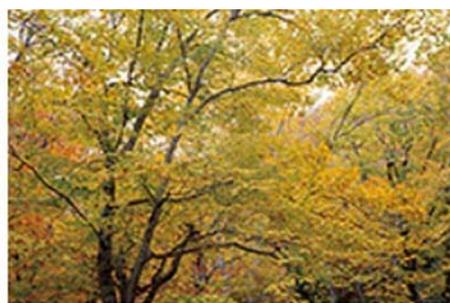
ご利用金額の一部を自治体を通じて北海道遺産の保全活動に活用。
「NPO法人北海道遺産協議会」に寄付され北海道各地にある宝物を次の世代に引き継いでいく活動へ

2011年～2017年累計7,627万円
※2017年 1,247万円

【2017年度寄付金による助成活動の一例】



螺湾（らわん）ブキ



北限のブナ林



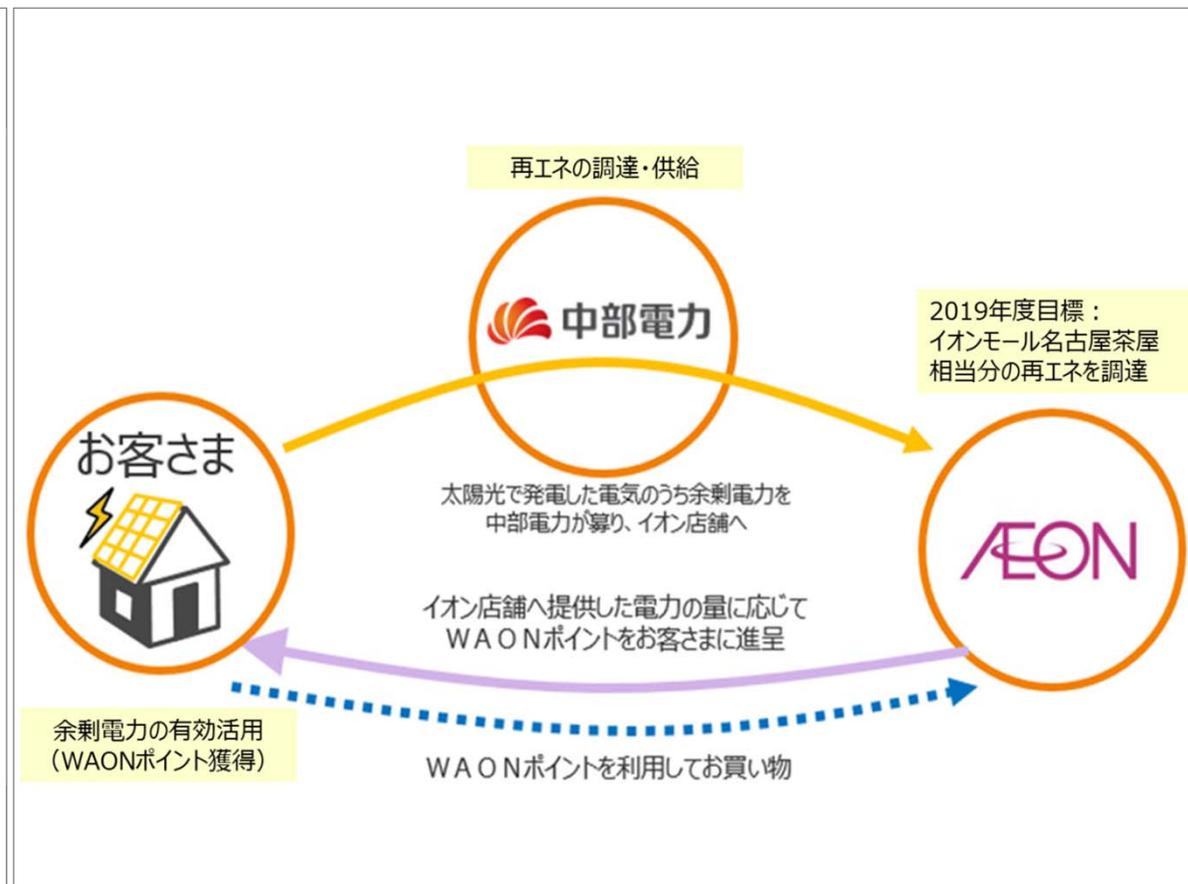
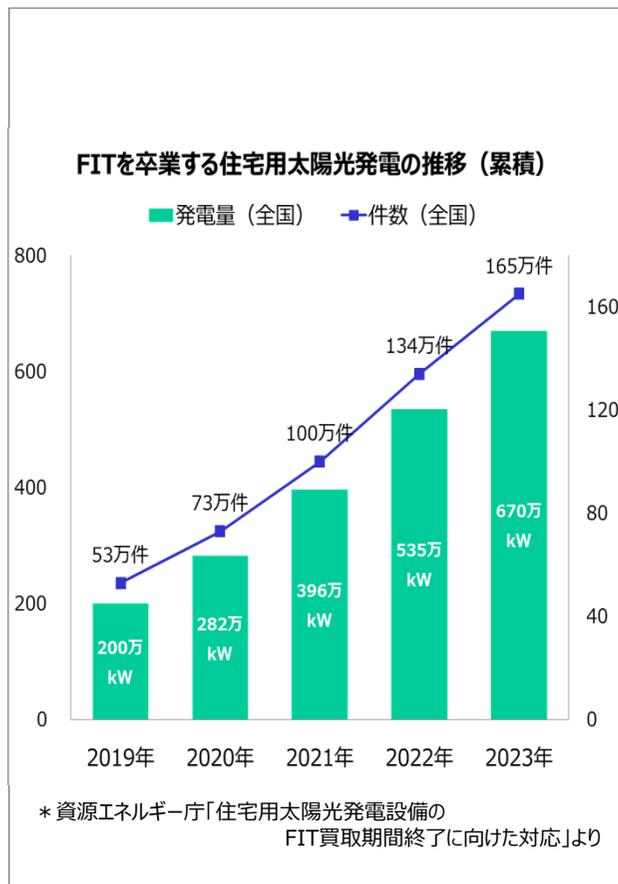
姥神大神宮渡御祭と江差追分

【地域を応援】卒FIT電力の活用



地域のお客さま宅の、再エネの有効活用に向けて

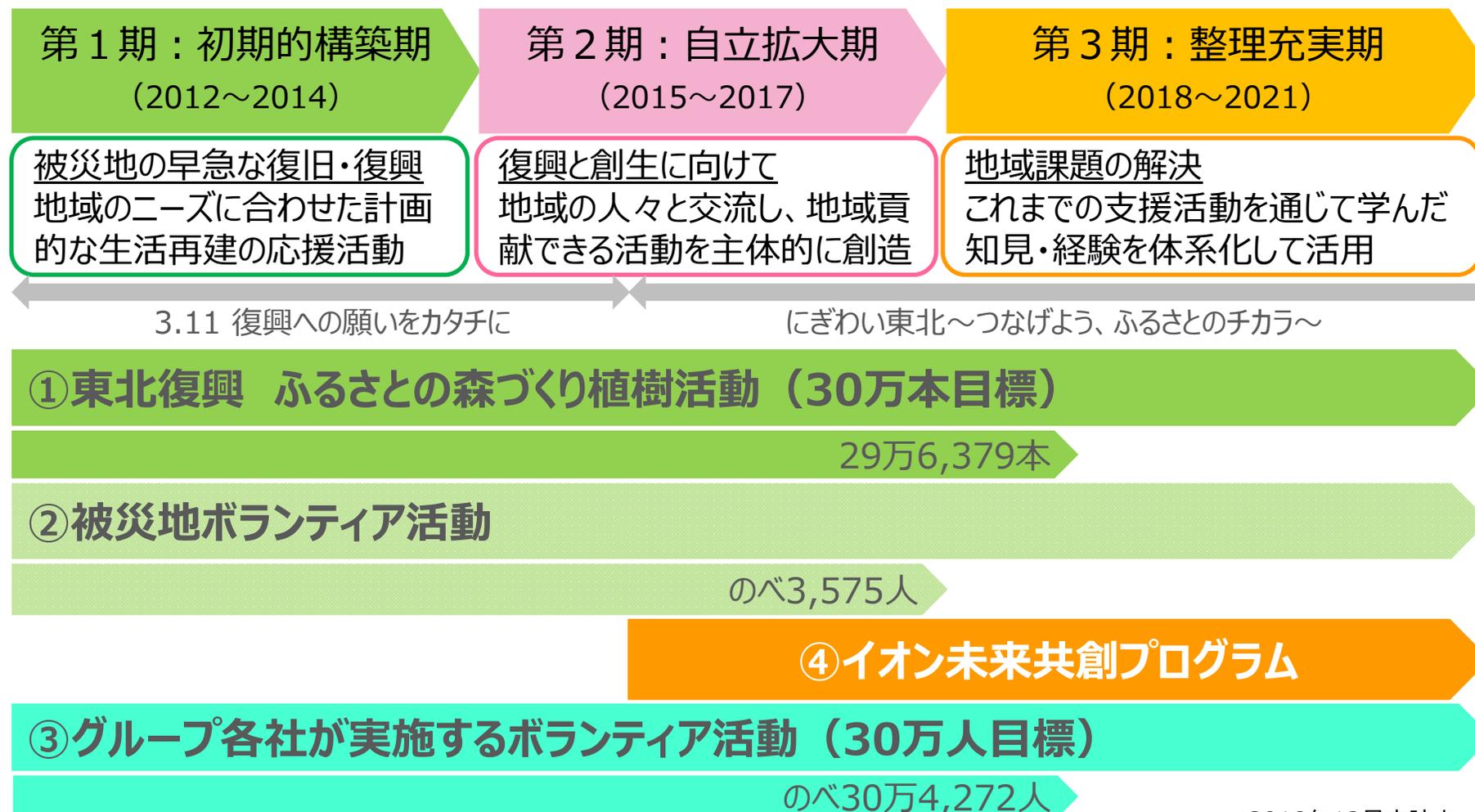
【卒FIT電力を活用した中部電力との新サービス検討（2018年11月公表）】



【地域を応援】イオン 心をつなぐプロジェクト



■ 2012年～イオン全従業員が経営活動で得た多様な資源を活かして東日本大震災の復興に貢献する、2021年までの10年プロジェクト



※2018年12月末時点

【地域を応援】イオン 心をつなぐプロジェクト



■ 100%釜石産ブドウ使用のワインの商品化

イオン未来共創プログラム 活動事例

甚大な津波被害を受けた岩手県釜石市にて2014年から1050本のブドウの苗木を寄贈・栽培。2018年7種類350本のワインを製造、イオンタウン釜石で販売会実施。



2014年

【ブドウの木の植樹祭】



2017年～

【選定・収穫ボランティア】



【ブドウ収穫】



2017年 12月～

【遠野まごころネット ワイン醸造所】



2018年 4月

【釜石ワイン発表会】



【イオンタウン釜石での販売会】

【地域を応援】イオン 心をつなぐプロジェクト



イオン未来共創プログラム 活動事例

■ 大槌クレソン栽培で立ち上がる地域を支援
被災地・岩手県大槌町で、復興を進める女性達が中山間地でクレソン栽培を昨年
からスタート。レシピの開発を経て、イオン盛岡店で200束のクレソンを試食販売。



【栽培予定地での検討】



【クレソン畑で収穫作業】



【クレソンのレシピ研究】



【販売するクレソンのPOP】

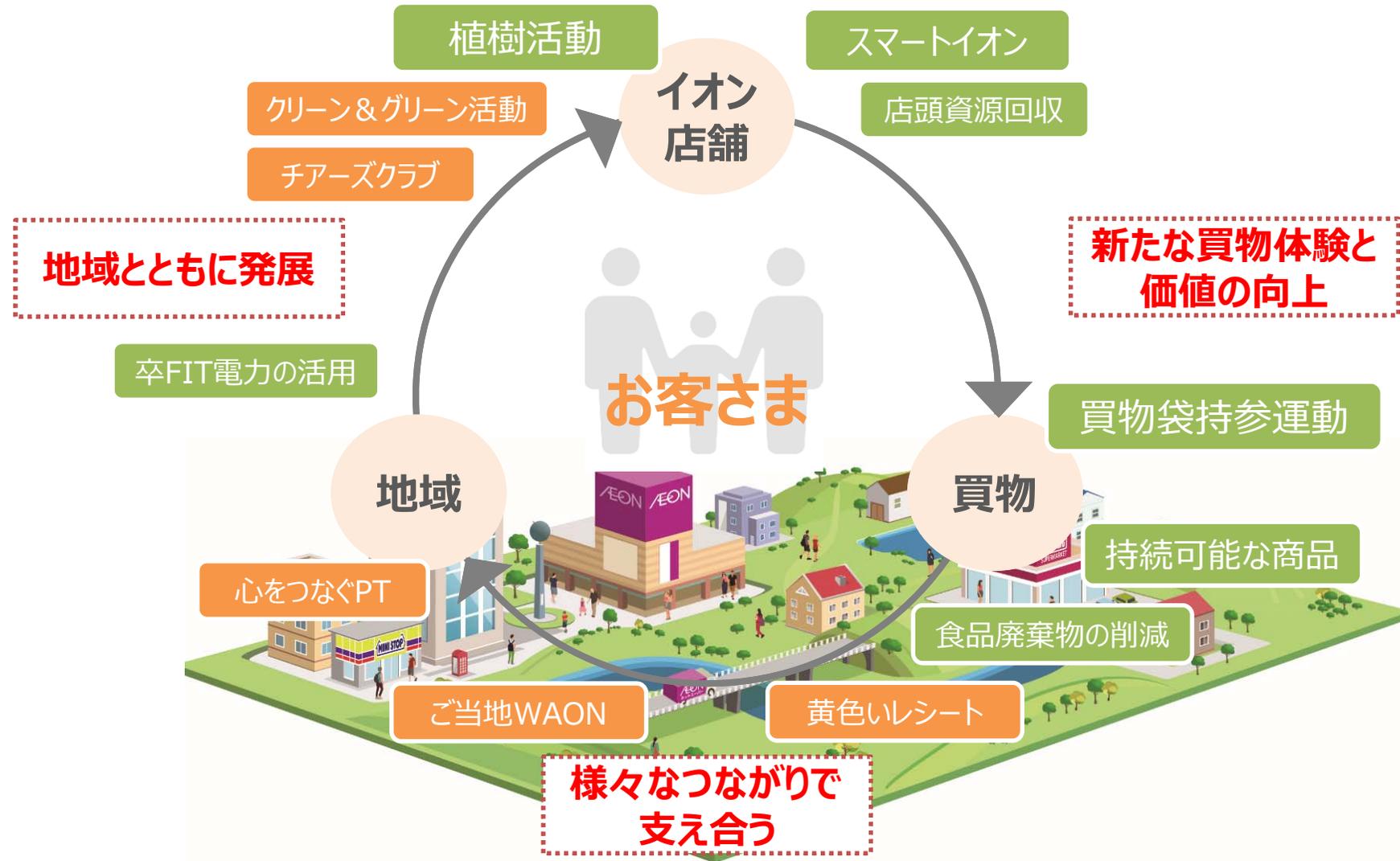


【生産者の皆さま】



【イオン盛岡店での試食販売会】

イオン店舗をプラットフォームに すべてのステークホルダーとともに



【人権と多様性を重視した職場づくり】



従業員の多様性を活かし、個々人がチャレンジできる企業へ



イオンの人権基本方針の改訂（2018年10月）

2001年8月

○イオン宣言 制定

イオンが今後進むべき方向を宣言として制定

【イオン宣言】イオンは、日々のいのちと暮らしを、開かれたところと活力ある行動で、「夢のある未来」（AEON）に変えていきます。

2003年4月

○イオン行動規範 制定

「すべてはお客さまのために」という価値観のもと、イオンピープルー一人ひとりの日常行動の基本的な考え方、判断の基準をまとめて制定

2008年11月

○イオンの人権基本方針 策定

イオン行動規範を推進するため人権基本方針を策定

1. 人権規範の尊重、2. 差別の禁止、3. 働きやすい職場環境の確立
4. 公正採用の実施、5. 人権啓発研修の実施

2014年9月

○イオンの人権基本方針 改訂

性的指向・性自認を理由とした差別を行わないことを明記

2018年10月

○イオンの人権基本方針を全面的に改訂

イオンの人権基本方針改訂の骨子

- ① **国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」**を支持し、実践することを明記
- ② イオンピープルに留まらず、お取引先さまなどイオンの事業活動に関わる**全てのステークホルダー**の皆さまを対象とすることを明記
- ③ 事業活動による人権への影響に関して、**人権デュー・ディリジェンス**のプロセスを構築し、人権が尊重される社会の実現を目指す

イオンの人権基本方針

私たちイオンは、イオンピープル（役員と従業員）全員が人権への理解を深め、本方針に基づき、人権が尊重される社会の実現を目指します。
本方針は、すべてのイオンピープルに適用し、すべてのパートナーと共有します。

① 人権に関する基本的な考え方

イオンは、イオンの基本理念およびイオン行動規範、2004年に参加表明した「国連グローバル・コンパクト」の原則にそって、私たちの事業活動から影響を受けるすべての人びとに対し、人権や労働に関する国内法に加えて、「国際人権章典」や国際労働機関（ILO）の「労働における基本原則および権利に関するILO宣言」に記された人権規範を遵守するとともに、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、実践します。

② 事業活動を通じた人権の尊重

イオンは、個人の多様な価値観・個性・プライバシーを尊重し、人種・国籍・民族・性別・年齢・出身地・宗教・学歴・心身の障がい・性的指向と性自認などを理由とした差別を一切行いません。また、常に相手方の立場に立ち、自分と等しく尊重します。

③ 人権デュー・ディリジェンスの実施

イオンは、事業活動による人権への影響に関して、人権デュー・ディリジェンスを通じて、人権が尊重される社会の実現を目指します。

【人権と多様性を重視した職場づくり】



障がい者の方が能力をいかし、
チームで仕事を行う「いきいきイオン」

障がい者の方の受け入れ、働きやすい環境づくり、サポートを複数社が協同で実施



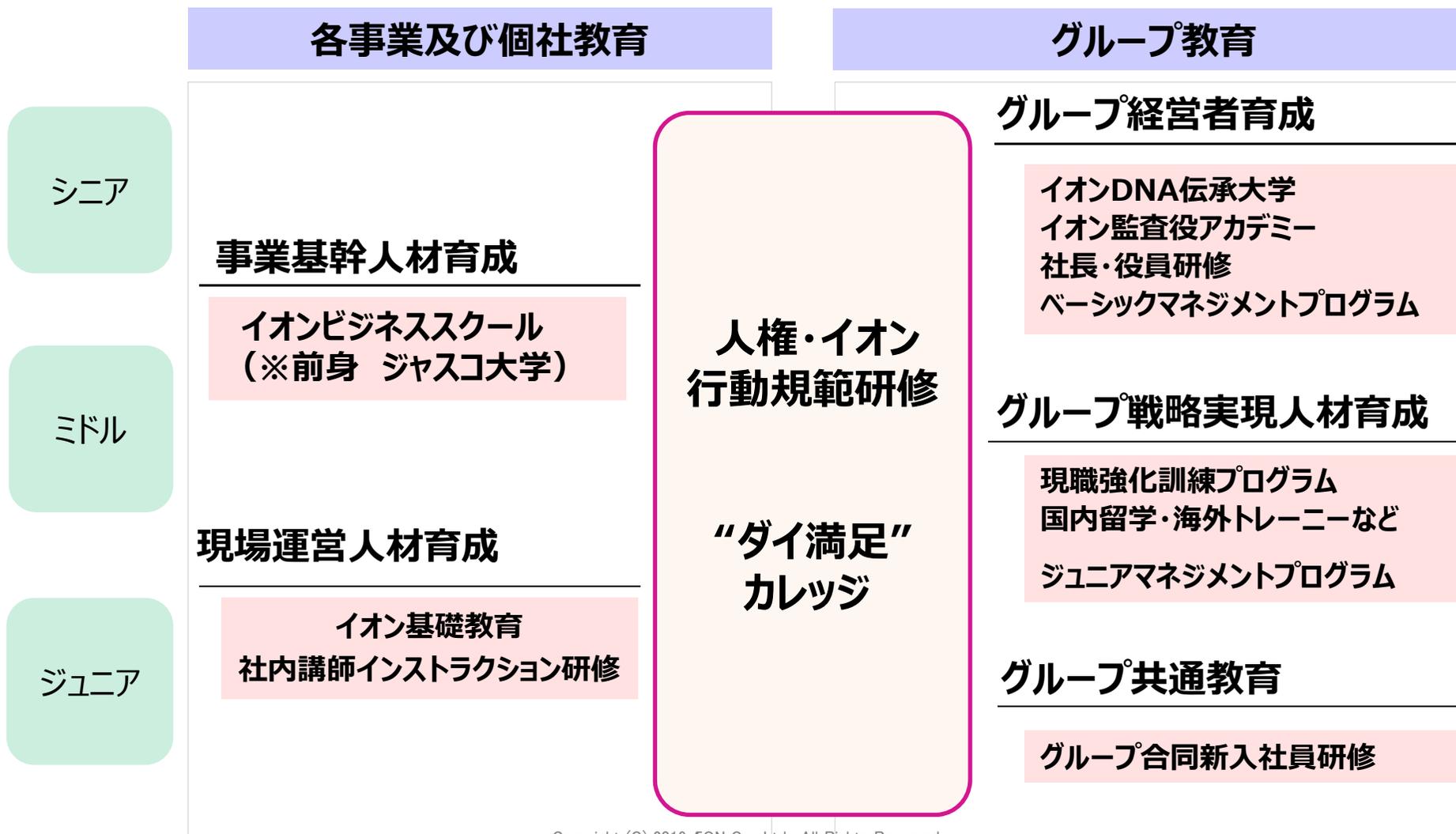
安心して
働ける環境の創出

仕事の理解度向上
業務内容の幅を拡大

【人材育成】イオンの人材育成体系



創業時から「教育は最大の福祉」という信念を受け継ぎ、育成体系を整備



【人材育成】人権・イオン行動規範研修



2004年より「人権・イオン行動規範研修」を全従業員を対象に実施



「イオン行動規範」
13言語で発行



グループ従業員 **55万人** を対象

世界13カ国でのべ **357万人** 受講

2014年より “ダイ満足”カレッジ 開校

女性や若手中心のキャリアに対するマインドセットの強化に向け階層別に研修実施



約6,500名が修了
(2018年2月末時点)



“ダイ満足”カレッジ トップマネジメントコースでは、経営幹部育成を実施

地域とのつながり・多様な学びの場を創出

- ✓ 産学連携として、神田外語大学、千葉大学と協働プログラムを開発
- ✓ 海外視察の方々には、イオンの歴史、理念、人材育成についても紹介



神田外国大学留学生との
交流アクティビティ



千葉大学・イオン連携講座



JICAアフガニスタン研修生

イオン銀行が提供する公正で質の高い金融教育

イオン銀行では、持続可能な社会の実現にむけ金融リテラシー講座を提供

12校 (大学11校、高校1校) のべ **2017名** 受講



イオン銀行による 金融リテラシー講座の実施風景

イオン サステナビリティ基本方針

私たちがイオンは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念のもと、「持続可能な社会の実現」と「グループの成長」の両立を目指します。

取り組みにあたっては、「環境」「社会」の両側面で、グローバルに考え、それぞれの地域に根ざした活動を、多くのステークホルダーの皆さまとともに積極的に推進してまいります。

HPで公開の「イオンレポート2018」P46～P49を是非ご参照ください